

# 特・級・韓・流・マ・ガ・ジ・ン BRIDGE

NOVEMBER

2011.11

創刊号

毎月1日発行

COVER STORY

リュ・シウォン

ALL ABOUT K-POP

KARA

少女時代

WONDER GIRLS

U-KISS

チャン・グンソク

RAIN

ALL ABOUT K-CINEMA

2012年1月14日(土) 全国ロードショー

マイウェイ 12,000キロの真実

SPECIAL BONUS

K-POP DVD COUPON

詳しくは p.49をご覧ください。

ENJOY KOREA

BLUE ISLAND、BLUE CITY、青色の世界、巨済へ

EXPOSE THE 『HANRYU』

## 世界中に広がる韓流現象

# キム・アラ (演出家)

日本の演出家の魂を継承する、韓国演劇界の女性リーダー

## 女優より演出家志望 多感な時代に才能開花

すでに数え切れない来日回数で、韓国の演劇を引っ張ってきたキム・アラ。

今年10月初旬から両国で公演をスタートする日韓共同制作の舞台「砂の駅」の演出は、彼女のライフワークのひとつだ。2007年にじくな

った演出家・太田省吾氏の作品に、キム・アラが新たな「装飾」をつけて舞台演出している。

彼女が演劇に興味をもち始めたのは高校時代。韓国が高度経済成長期の時代に、彼女も多感な時代を過ごした。演劇のほかにも詩、絵画、歌、舞踊など芸術分野にのめりこんだ。女優より演出する方が面白かった。いろんなことをしていくうちに、自分がなにか生み出す興味が湧いて来たのよね。それまでやってきた趣味は演出のためのトレーニングだったの。

まだ日本の大衆文化が韓国で一般開放されていなかった1988年、彼女は劇作家・太田省吾演出の「水の駅」を見た。太田省吾とは無言劇という独特のジャンルを作り出し「水の駅」「地の駅」「風の駅」の「駅」シリーズをプロデュースした劇作家である。

「太田さんとの出会いは印象的で宇宙的な共感、つまり言葉とか価値観とかを超えた共感があったんです。力を入れなくても自分の感性が太田さんの宇宙で解放された感じがして、ああこの出会いは祝福

だと思いました。」

演劇は「遊び」であると考え、彼女も韓国でも郊外の野外劇場で実験的な作品を上演したり、音楽、美術、文学、演技等を総合した祭祀的な演劇手法で、日本だけでなくヨーロッパなどでも作品を発表するなど、ユニークな活動で知られている。太田氏の舞台の魅力については



## 日本人は「木」を見て、 韓国人は「森」を見ている

キム・アラは同じ舞台で演技をする日本人をこう語る。

「仕事に対しては徹底的なプロ意識を持ち、繊細で思いやりがある。韓国人は基本的に一部分より、全体を見るじゃない。でも日本人はその一部分が大事でしょ。日本人は

現在1956年生まれ、高校時代に演劇に目覚める。現在劇団「ムチョン舞天」の主幹・演出家。84年アメリカ演劇進学から帰国後、86年デネシー・ウィリアムズ第1回アジア女性演劇人会議で初来日し、渋谷サンジャンで韓国劇「隠れた水」を上演。太田省吾や如月小春、岸田理生ら日本の演劇人との交流のきっかけとなる。2005年には韓国文化省より功労賞受賞。2009年から太田省吾の沈黙劇に挑戦し、故岸田理生氏を偲ぶ特別企画「リア」を日韓合同の両国で「水の駅」「風の駅」を連続上演。2010年には俳優陣で座・高円寺にて公演。越えて来日の際には必ず種類を食べ歩き、若くして「韓国100人のター」に選出されるなど、韓国演劇界を代表する演出家の一人。

Story / Suzuki Aya  
Photo / Jang Kiyong

たどり着き、無言のままあらゆる人間関係を築いていく。

今回の日本公演は韓国で公演するのと違いはあるのかと聞いたら「特に演出には差はありません。私は演技者の個性と感性を引き出すだけ。演劇は国というフレームをややすやすと超えるの。」

稽古場でも日韓のトップ俳優たちが「駅」シリーズの舞台に惚れて演技論を熱く語っていた。言葉が通じなくても「砂の駅」の俳優人は、サークルを囲む「線路」から離れて、同じ志をもつ誰かに触れたくて集まってきたのだ。その舞台を装飾する、キム・アラ。朝の鮮やか成る国から来た芸術の女旗頭は、たくましくも見えた。



## 日韓共同制作公演『砂の駅』～大杉漣、品川徹、ペク・ソンヒら日韓の実力派俳優陣が集結～

2011年11月3日(木祝)～6日(日) 世田谷パブリックシアター [S席:\6,000/A席:4,000]  
・原作:太田省吾  
・演出:構成:キム・アラ  
・出演:大杉漣、品川徹、上杉満代、鈴木理江子。韓国俳優陣は「韓国の森光子」といわれるペク・ソンヒ映画「アジョッシ」のクォン・ソンドク、「シュリ」のナム・ミョンニョルらが出演。

問い合わせ先  
NPO法人魁文舎  
(TEL) 03-3275-0220  
(HP) <http://WWW.kaibunsha.net>